

商工会で恐竜の模型を設置

商工会館の屋根に恐竜が！

4月27日、町商工会館の屋根に全長5メートル、高さ3メートルの恐竜の模型が登場しました。新恐竜博物館のオープン1周年を記念して町商工会が設置。企画、製作までを商工会理事で行いました。竹内昭剛会長代行は「この恐竜を目印に、観光客が本町通りの商店街へ来てほしい。また、イルミネーションも取り付けられるようにしているので、夏と冬はイルミネーションを楽しんでもらいたい」と話しました。



屋根の上に設置された恐竜の模型



神事が行われた八勢目鑑橋

林田能寛祭

偉業を後世に語り継ぐ

4月4日、29回目の林田能寛祭が開催されました。五人の先哲の1人である林田能寛は、熊本と宮崎を結ぶ日向往還の難所・八勢川に堅固な橋を造るため、私財を投じ、1855（安政2）年3月に、長さ62メートル、幅約4メートル、高さ約9メートルの八勢目鑑橋を完成させました。その偉業を後世に語り継ぐため、林田能寛顕彰会が主催して毎年開催しています。林田家の墓地がある、妙琺寺（滝川）の墓前で供養後、八勢目鑑橋（上野）に会場を移し神事が執り行われました。

緒方さん宅のバラ園に多くの人

バラの香り

緒方鎮雄さん（滝川）宅の庭に作られたバラ園は、見学が自由にできるということで人気が広がり、毎年4月下旬から多くの人々が訪れています。バラ園は、バラの生産を引退した7年前から趣味で造られており、約1,000平方メートルの庭には、約250種類のバラが咲いています。バラは年2回、4月下旬と10月下旬に楽しむことができ、4月下旬がたくさんのバラが咲くそうです。緒方さんは、「今年は、五庵橋の横にもバラを約150本植えたので、10月頃にはきれいに咲いてくれると思う。みんなに楽しんでもらえたらうれしいです」と笑顔で話しました。



1_バラ園を訪れた人に説明をする緒方さん（右） 2・3_約250種類のバラを見ることができる緒方さん宅のバラ園 4_10月ごろには五庵橋の横でもきれいなバラが見られます

種いも市

約370年続くと伝えられる伝統行事

4月1日から五日おきに、御船川河川敷で、正保時代から始まったと伝えられている種いも市が開かれました。種いも以外にも野菜の苗や草花などが売られ、市には町内外から多くの客が訪れて賑わいました。20年以上種いも市に出品している渡辺君子さん（滝川）は「ツルの子芋やハス芋など、芋は10種類程出品しています。種いも作りには大きな手間が掛かりますが、お客さんとの交流があって楽しいです。今後も出品者が増えることで、市が続いていくと嬉しいです」と話しました。



雨天時に開催された種いも市の様子

御船LOVEクラブが発足

観光ボランティアガイド12人で「おもてなし」

4月28日、町主催の観光ボランティアガイド養成講座の受講生12人が、「御船LOVEクラブ」（沖田昌史会長）を発足し、設立総会が開催されました。これは、今後、観光客への町内の観光名所や史跡を回るツアーなどを企画し、町の活性化につなげることを目的とした連絡協議会になります。5月4日、5日は「御船街なか散策」が開催され、参加者38人が観光ボランティアガイドの案内で、御船川左岸の名所を回る約3.6キロのコースを楽しみました。



旧裁判所跡である公民館御船分館を説明するガイド

四宮神社で竣工際

400年前の彫刻を残したまま神殿を改築

4月12日、四宮神社（木倉）の神殿約30平方メートルが約400年ぶりに改築され、改築を祝う竣工祭が、氏子ら約100人が出席して開催されました。同神社は、735年に八幡宮を祀る神社として創建。1469年からは、阿蘇一の宮と三の宮、祇園宮も祀られ四宮大明神と称されています。1586年に焼失していた神殿は、1600年ごろに加藤清正により再建されました。昨年8月から行われた改築工事では、当時の彫刻がそのまま利用されています。



400年前の彫刻を残したまま改築された神殿

ロアッソ熊本「火の国もりあげタイ！」

表敬訪問式が行われました

4月13日（月）に、ロアッソ熊本「火の国もりあげタイ！」3選手による表敬訪問式が行われました。今年1年間、担当3選手が中心となって、本町のまちづくりに協力します。式ではロアッソ熊本の池谷友良社長からまちづくりの協力に対する意気込みが話され、3選手の顔写真と御船町の文字の入った旗や、3選手のサイン入りLフラッグなどが贈呈されました。その後、3選手は恐竜博物館や街なかギャラリーに訪れ、町の歴史や文化に触れました。



恐竜博物館を訪ねた3選手。左から藤本大選手、常盤聡選手、永井建成選手